小学校版

子どもたちに「確かな学力」を育むために

平成３０年度久留米市学力・生活実態調査の結果のお知らせ

平成３１年３月１１日
久留米市教育委員会

昨年１２月１８日（火）に小学生を対象に久留米市が独自に実施した「学力・生活実態調査」の結果をお知らせします。

「教科に関する調査」の結果と課題については、以下のとおりです。これらは、測定できた学力の一面ですが、市教育委員会としては、この結果も確かな学力を育む上で大変重要なものであると受けとめております。

裏面には、小学校３年生から６年生の児童を対象に行った「生活習慣・学習習慣に関するアンケート調査」の結果から明らかになった、久留米市の児童の現状と課題を示していますので参考にしてください。

なお、お子様一人一人の結果については、学校から個人票「あなたの学習の様子」が配布されますので、ご参照ください。

教科編

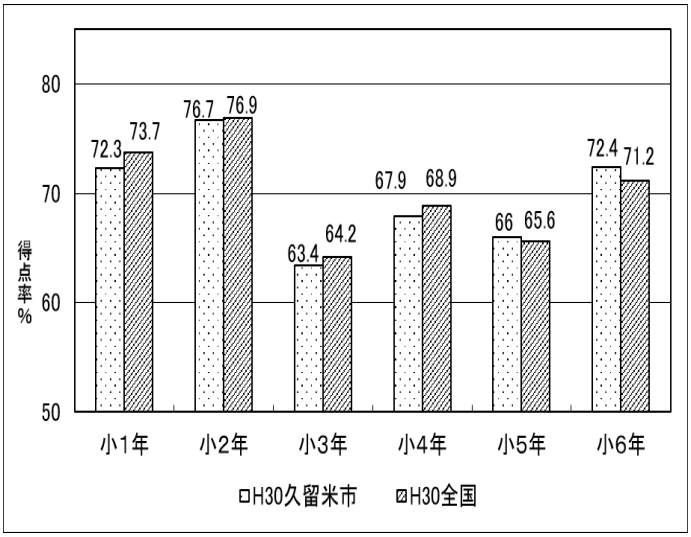
【平成３０年度学力実態調査の結果】

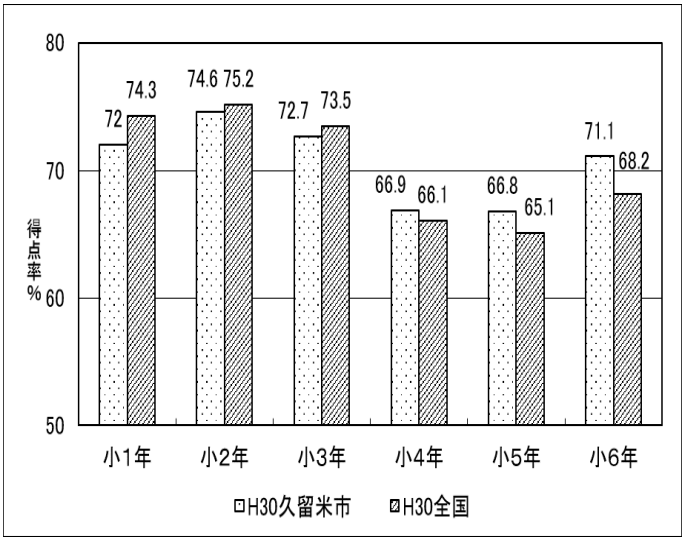
【国語】（得点率：％）

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
久留米	72.3	76.7	63.4	67.9	66.0	72.4
全　国	73.7	76.9	64.2	68.9	65.6	71.2

【算数】（得点率：％）

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
久留米	72.0	74.6	72.7	66.9	66.8	71.1
全　国	74.3	75.2	73.5	66.1	65.1	68.2





【結果】

４年生の算数、５年生の国語と算数、６年生の国語と算数で平均正答率が全国平均を上回りました。また、２年生の国語と算数、３年生の国語と算数、４年生の国語では、全国平均との差が１ポイント以内で、概ね全国平均と同じ水準でした。

【課題と今後の取組】

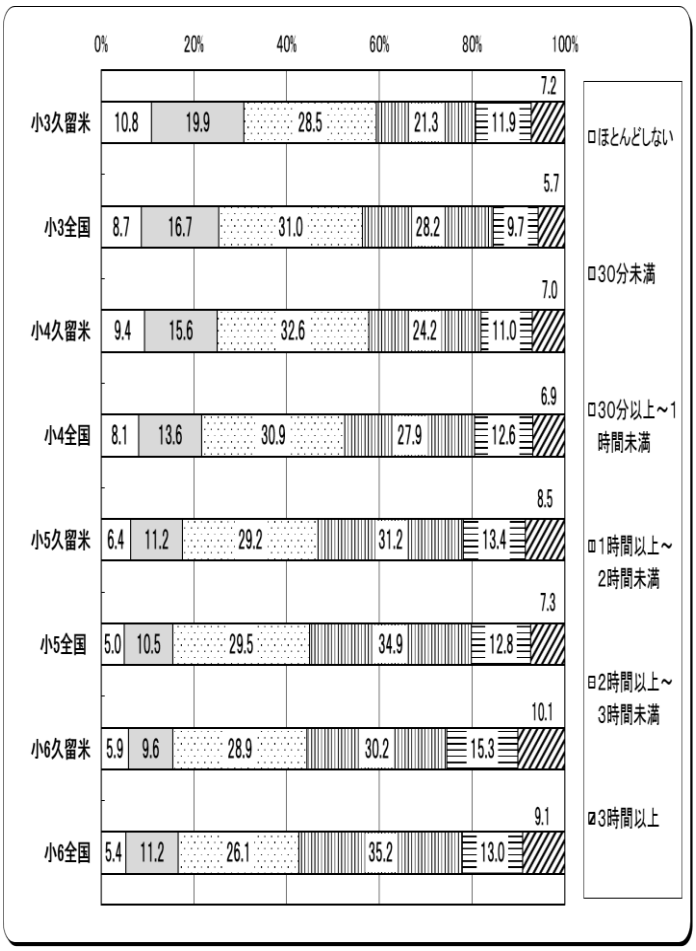
国語科では、文章の構成を読んだり、文章を要約したりすることに課題が見られました。今後の授業においては、文章全体を読んで筆者の主張や主題、段落構成のよさについて考え、対話する活動の充実を図ります。

算数科では、図形に関する問題で、辺の長さや面積の求め方を説明することに課題が見られました。今後の授業においては、求め方やそう考えたわけを書く活動、考えた求め方を出し合って共通点や差異点について対話する活動の充実を図ります。

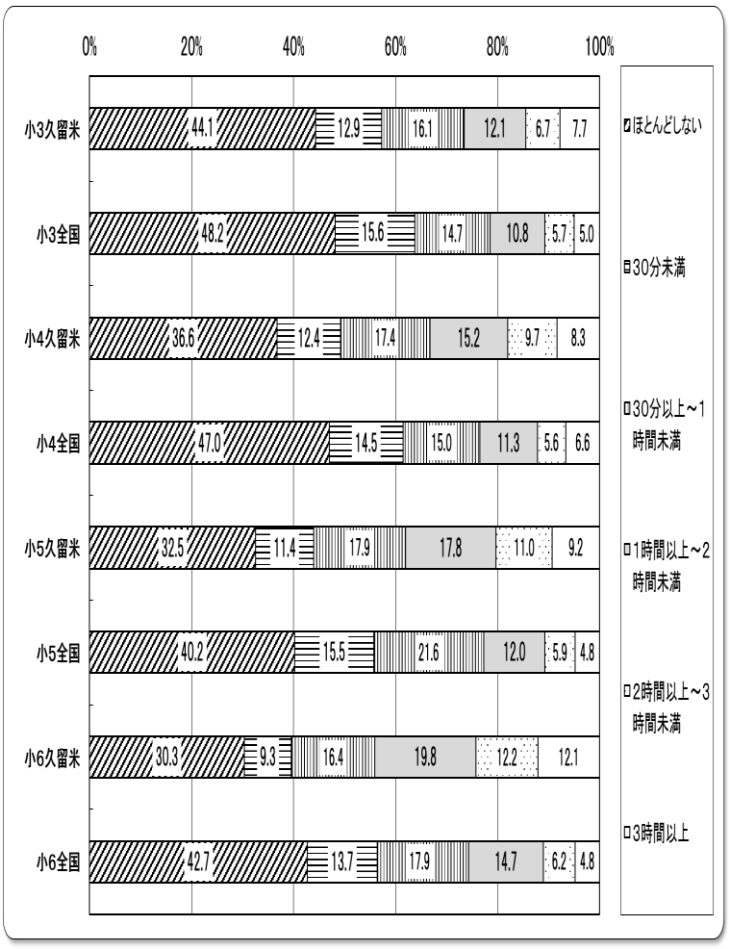
習慣編

３年生から６年生を対象に実施した「生活習慣・学習習慣に関するアンケート調査」の中から２つの項目の結果をグラフで示しました。

【平日の授業以外の学習時間（塾を含む）】



【学校がある日にゲームをする時間】



【現状と課題・今後の取組】

平日の授業以外の学習時間は、学年が上がるほど「１時間以上勉強している」割合が高くなり、「ほとんど勉強しない」割合が低くなっています。学年が上がるほど、学習習慣が定着してきていることが、学力実態調査の平均正答率の伸びにつながっているようです。一方で、平日にゲームをする時間は全ての学年で全国平均より長く、高学年ほど長い時間ゲームをしている傾向が見られます。

家庭学習の時間を確保するためには、家庭学習の場所や時間について、またゲームやスマートフォンなどに触れる時間について、きまりをつくることが大切です。

ゲームやメディアツールを使い始める時から、家族内での約束を決めるなどしてメディアとの適切な接し方を身につけさせ、家庭学習習慣の定着を図っていきましょう。

お願い

子どもの学力の向上のためには、家庭等での生活リズムや学習習慣の形成が大切です。ご家庭で生活や学習のきまりを見直したり、確認したりして学校と協力しながら取り組んでいただきますようお願いします。

１ 時間と場所を決めて、宿題と自学自習に取り組むようにしましょう

２ 特に、低学年のうちは、できるだけお子さんが家庭学習を行っている様子を見てあげて、頑張りをほめましょう

３ ゲームやメディアツールについて約束を決めて徹底しましょう